



療養費取扱い研修会開催 真剣に聴講



10月6日(木)と12日(水)の両日、それぞれ第一支部と第二支部の会員を対象に、午後1時30分から3時まで愛知県柔道整復療養費取扱い研修会が会館講堂で開催され、合わせて553名の会員が出席した。

1. 料金改定説明について

藤川担当副会長が、10月1日から実施された療養費料金改定の経緯を説明。骨折・不全骨折・脱臼の整復料や後療料にウェイトを置いた今回の改定が柔整本来の業務を扱う施術者が正当に評価されるよう行われたことや、より一層の医接連携強化の必要性を強調した。また、注意喚起を目的に行っている本会の療養費適正調査委員会による返戻に対して理解を求め、併診や慢性疾患に対する注意を促した。

2. 施術録記載と返戻対応について

山口保険部長が、基本的な施術録の扱いや記載方法、返戻対策について資料をもとに説明した。疑義を持たれやすい申請の傾向、対応、付箋回答方法、保険者側の施術録の提示・患者照会・不支給などの根拠について詳述した。

3. 制度改正・学校カリキュラム改正・自賠責取扱い等について

森川会長が、今回の改定は柔道整復師と医師しか扱えない骨折という外傷の施術を忘れてはいけないという期待を込めたものであることを理解してほしいと述べ、昭和63年以来となる歴史的な改定に至った経緯や、柔道整復療養費検討専門委員会などで検討された制度改正や学校カリキュラム改正等について詳述。さらに、頻発する自賠責の不正請求に触れ、強い口調で前回の研修会同様、適正請求の徹底を訴えた。

接骨院はマルチサポーターの役割を

第24回日整学術・生涯学習講習会



10月8日(土)12時より、第24回日整学術・生涯学習講習会が日整会館で開催された。会員と都民約130名とともに本会から8名の役員が参加した。

はじめに、『スポーツビジネス革命～巨大ビジネス化へと成長する視点～』と題し、学校法人芦屋学園理事長(元全日本ラグビー代表選手)大八木 淳史先生の特別公演が行われた。大八木先生は持論を交えて次のように述べられた。

スポーツ(sports)はラテン語のdeportareを語源とし、“そちらへ運ぶ”という意味がある。つまり非日常のスポーツで爽快感や達成感を味わうことや我慢や忍耐力を養うことで、日常生活や仕事を豊かな充実したものにする事ができる。教育現場に目を移せば、部活動がその役割を担っている。

人生は99%が邂逅(かいこう)である。スポーツも、ある種目やある指導者との邂逅であり、その中で練習が辛いとか、いやで仕方がないということもあり、そのプロセスも邂逅といえる。残りの1%は奇跡というもので、このプロセス(邂逅)がないと起こらないことである。

playerとsportsをつなぐものがbuffer zone(緩衝地帯)またはマルチサポーターである。マルチサポーターの役割が接骨院の皆さんのミッションではないだろうか。

大八木先生は最後に「2019年のラグビーワールドカップには柔道整復師のサポートをお願いします」と述べ、講演を締めくくられた。

その後、「熊本県活動報告」など2題の会員発表と、モンゴルの活動に関する日整の国際部報告、「学術・生涯学習報告」が行なわれ、午後3時30分に終了した。



Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
野田高司	S55.5.25	一宮	米田柔整	初段	会食
岡 正雄	S22.1.1	大曾根	中部柔整	1級	散歩



野田高司会員



岡正雄会員(一番右) 家族で会食

奮闘及ばず惜しくも...

10月9日(日)午前9時より、講道館において日整柔道大会が開催された。本会から役員や一般会員など10数名が応援に駆け付けた。

第6回文部科学大臣杯争奪日整全国少年形競技会
第25回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会
第40回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会



少年形競技は全国から49チームが参加し、大道場にて4ブロックに分かれて開始された。各ブロックより予選を勝ち抜いた愛知・岐阜・大阪・神奈川の4チームが決勝に進んだ。森 正仁監督(半田)率いる愛知県ペアの牧園羽菜さん(取)と石原梗雅君(受)は、予選・決勝とも素晴らしい形を披露したが、審査の結果、0.2ポイントの僅差で惜しくも優勝を逃した。二人ともまだ小学校5年生なので、来年の奮起が期待される。

優勝 岐阜 準優勝 愛知 3位 神奈川 4位 大阪

優勝 千葉 準優勝 茨城 3位 大阪・東京A

形競技会に続き、少年柔道大会が行なわれ、48チームがトーナメント戦で優勝を目指して熱戦を繰り広げた。羽田野 剛監督(豊橋)率いる愛知県チームはベスト8に入り敢闘賞を獲得した。3回戦までは順当に勝ち進んだが、準々決勝で大阪府に1-3で惜しくも敗退した。



少年大会と同時進行で、階下の学校道場・国際部道場にて日整柔道大会の1回戦が、全国16チームが参加して行われた。愛知と静岡で編成された東海東部は初戦で中関東と対戦。浅井選手(愛知)が審判協議のすえ有効を取り消され、1-1で代表戦までもつれ込んだが、吉田選手(静岡)が敗れ、惜しくも1回戦で涙を飲んだ。

2回戦(準々決勝)からは少年の大会が終了した大道場で行なわれ、南関東が2年ぶり3回目の優勝に輝いた。



左から、岡崎高章・浅井友哉・吉田卓実(静岡)・岩澤勇治(静岡)・石田雅明の東海東部代表選手

優勝 南関東 準優勝 北信越西部 3位 北関東・中関東

なお、特別功労表彰(10回出場)で石田選手(鶴舞)が、特別表彰(5回出場)で春日井柔道部長が表彰を受けた。また本会代表で相羽秀昭会員(半田)が審判員を務めた。

キャリアールNO.9に間違いがありました

P4「情報収集と購買活動をサポート」下段
「愛知県接骨師会共済会」【共済会規程より】の災害見舞金(誤)半壊以上100万円 → (正)半壊以上10万円
訂正しお詫びいたします。

